

国際法外交雑誌

第112巻 第1号

2013年5月

論 説

国際法の規範形成における国際法委員会の役割

——課題選択を中心に—— 上智大学教授・国連国際法委員会委員 村 瀬 信 也 1

ソマリア「海賊」問題と国連

——「安保理の機能変化」論との関わりで—— 南山大学教授 山 田 哲 也 30

研究ノート

An Analysis of Legitimacy Discourses in International Criminal Justice
through Comparative Research on the ICC and the ECCC

Associate Professor, Aichi Prefectural University Hitomi TAKEMURA 56

「世界最高裁」の夢

——20世紀転換期アメリカの「法律家的」平和主義の思想史的検討——

日本学術振興会特別研究員(PD) 三 牧 聖 子 80

資 料

判例研究・国際司法裁判所

ジェノサイド条約適用事件1996年7月11日先決的抗弁判決の

再審請求事件(判決・2003年2月3日) 国際司法裁判所判例研究会 107

判例研究・国際司法裁判所

武力行使の合法性事件(セルビア・モンテネグロ対オランダ)

他7件(先決的抗弁判決・2004年12月15日) 国際司法裁判所判例研究会 123

紹 介

望月康恵 著『移行期正義——国際社会における正義の追及』

東京外国語大学教授 篠 田 英 朗 149

藤田久一 著『核に立ち向かう国際法——原点からの検証』

青山学院大学准教授 阿 部 達 也 154

清水奈名子 著『冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護

——多主体間主義による規範的秩序の模索』慶應義塾大学専任講師 尹 仁 河 160

Keiichiro Okimoto, *The Distinction and Relationship between*

Jus ad Bellum and Jus in Bello 同志社大学教授 新 井 京 165

会 報

一般財団法人国際法学会 第2回理事会 170

パネル公募のお知らせ 174

國際法外交雜誌

第112巻 第2号

2013年8月

特集「国連海洋法条約採択30周年」

論 説

国連海洋法条約の成果と課題

——条約採択30周年の地点に立って——

龍谷大学教授 田 中 則 夫 1

大陸棚限界委員会の活動と機能

——国際機関による海洋法の発展——

西南学院大学教授 古 賀 衛 26

公海漁業の規制

——IUU 漁業をてがかりとして——

熊本大学教授 深 町 公 信 53

国連海洋法条約と日本

——署名開放30周年に寄せて、二つの新制度の発展を中心に——

外務省外務報道官 佐 藤 地 81

紹 介

江藤淳一 著『国際法における欠缺補充の法理』京都産業大学教授 岩 本 誠 吾 108

Roland Portmann, *Legal Personality in International Law*

静岡県立大学助教 北 野 嘉 章 113

山内惟介 著『21世紀国際私法の課題』

京都大学教授 中 西 康 119

大矢根聡 著『国際レジームと日米の外交構想

——WTO・APEC・FTAの転換局面』

大阪大学准教授 内 記 香 子 124

主要文献目録

国際法

鈴木めぐみ・永田高英 129

国際私法

申 美穂・種村佑介 180

国際政治・外交史

小川裕子・山越裕太 202

会 報

『国際法外交雑誌』の投稿規程および執筆要領等の改正

227

小田滋賞規程等の制定

237

國際法外交雜誌

第112卷 第3号

2013年11月

論 説

International Courts and Tribunals and the Development of the Rules
and Methods Concerning Maritime Delimitation

Professor, Waseda University Mariko KAWANO 1

国際規範の法化・遵守連鎖の逆説

——WTOにおける法化の不均衡とその波及効果—— 同志社大学教授 大矢根 聡 28

研究ノート

武器貿易条約の成立と日本の役割

内閣法制局参事官 石 垣 友 明 52

外務省通常兵器室上席専門官 木 村 泰 次 郎

軍縮会議日本政府代表部一等書記官 田 辺 信

書 評 論 文

平和構築における警察改革（支援）——紛争後・移行期社会の警察に関する研究の動向——

関西外国語大学専任講師 古 澤 嘉 朗 76

資 料

解説・日本の国際法判例（7）——2009（平成21）年——

「日本の国際法判例」研究会（第2期） 87

紹 介

玉田 大 著『国際裁判の判決効論』

桐蔭横浜大学教授 内 ケ 崎 善 英 138

許 淑娟 著『領域権原論——領域支配の実効性と正当性』

京都大学教授 酒 井 啓 亘 142

Tetsuya Toyoda, *Theory and Politics of the Law of Nations:*

Political Bias in International Law Discourse of

Seven German Court Councilors in the Seventeenth

and Eighteenth Centuries

慶應義塾大学教授 明 石 欽 司 148

等松春夫 著『日本帝国と委任統治——南洋群島をめぐる国際政治1914-1947』

早稲田大学教授 篠 原 初 枝 153

会 報

一般財団法人国際法学会 第4回理事会

158

主要文献目録について

163

第45回、第46回安達峰一郎記念賞

163

國際法外交雜誌

第112巻 第4号

2014年1月

論 説

国際法実現過程におけるソフト・ローの機能 埼玉大学教授 山 本 良 1

研究ノート

人権保障のための積極的義務としての手続的義務
——人権侵害に対する実効的な調査義務をめぐる法理の展開——
青山学院大学教授 申 惠 丰 26

難民認定審査の多段階的構造と各段階における判断の性質
——「灰色の利益」論の位置づけと機能——
東京大学特任准教授 山 本 哲 史 53

資 料

国連国際法委員会第65会期の審議概要 国際法委員会研究会 78

解説・日本の国際法判例(8)——2010(平成22)年——
「日本の国際法判例」研究会(第2期) 105

紹 介

小田 滋 著『回想の海洋法』 国際海洋法裁判所所長 柳 井 俊 二 159

高桑 昭 著『国際民事訴訟法・国際私法論集』 西南学院大学教授 多 田 望 164

篠田英朗 著『「国家主権」という思想——国際立憲主義への軌跡』
東京大学教授 石 田 淳 169

会 報

国際法学会2013年度(第116年次)研究大会 174

個別報告公募のお知らせ 207

パネル公募のお知らせ 208

弔 辞 209

総 目 次 216